

「市外の人材活用と地域活動に関するアンケート調査」 に関する調査結果報告

令和7年2月
大阪大学大学院工学研究科
ビジネスエンジニアリング専攻加賀・武田研究室

准教授	武田裕之
博士後期課程3年	関根仁美
博士前期課程2年	潮優貴

調査の目的

行政が関係人口を活用した地域の内発的発展を目指すための知見を得ることを目的とし、発展の主体となる地域住民の関係人口理解や協働意識を明らかにする

➤ 配布対象

飛騨市に住む20歳以上の者900人(無作為抽出)

※性別(均等)、年代(20代～70代以上の6世代で均等)、居住地(古川町:神岡町:河合町+宮川町=4:4:1)で割付

➤ 調査概要

- ・ 期間: 2024年3月8日～18日
- ・ 様式: 紙面またはWEBアンケートフォーム
- ・ 回収数: 362部 (紙: 203部、WEB: 159部) 、回収率: 40.2%



図. 飛騨市の地図

調査結果_基本属性



- 女性がやや多く、年代は70代以上、地域は古川町や神岡町が多い
- 居住年数は20年以上が多くを占め、市外居住歴のある人も多くを占める

表. 回答者（n=362）の基本属性

属性項目		度数 (人)	割合 (%)	
性別	男性	148	40.9	
	女性	210	58.0	
	回答しない	4	1.1	
年齢	20~29	32	8.8	
	30~39	55	15.2	
	40~49	52	14.4	
	50~59	60	16.6	
	60~69	77	21.3	
	70~	85	23.5	
	回答なし	1	0.3	
地域	古川町	169	46.7	
	神岡町	148	40.9	
	河合町	25	6.9	
	宮川町	20	5.5	

表. 回答者（n=362）の基本属性(続き)

属性項目			度数 (人)	割合 (%)	
家族構成	配偶者と	同居	262	72.4	
		別居	5	1.4	
		いない	80	22.1	
		回答なし	15	4.1	
	父母と	同居	117	32.3	
		別居	79	21.8	
		いない	98	27.1	
		回答なし	68	18.8	
	子孫と	同居	152	42.0	
		別居	67	18.5	
		いない	92	25.4	
		回答なし	51	14.1	
親戚と	同居	23	6.4		
	別居	65	18.0		
	いない	161	44.5		
	回答なし	113	31.2		
居住年数	1年未満	3	0.8		
	1～2年	6	1.7		
	3～5年	13	3.6		
	6～10年	12	3.3		
	11～15年	9	2.5		
	16～20年	14	3.9		
	20年以上	303	83.7		
	回答なし	2	0.6		
市外 県外居住	市外居住歴	あり	287	79.3	
		なし	74	20.4	
		回答なし	1	0.3	
	県外居住歴	あり	182	50.3	
		なし	179	49.4	
		回答なし	1	0.3	

調査結果_地域活動への関わりと愛着



- 約8割が地域活動に参加しており、その半数が役員活動や頻度高く関わる
- ほとんどが飛騨市に対し愛着を抱き、半数以上が比較的強い愛着を抱く

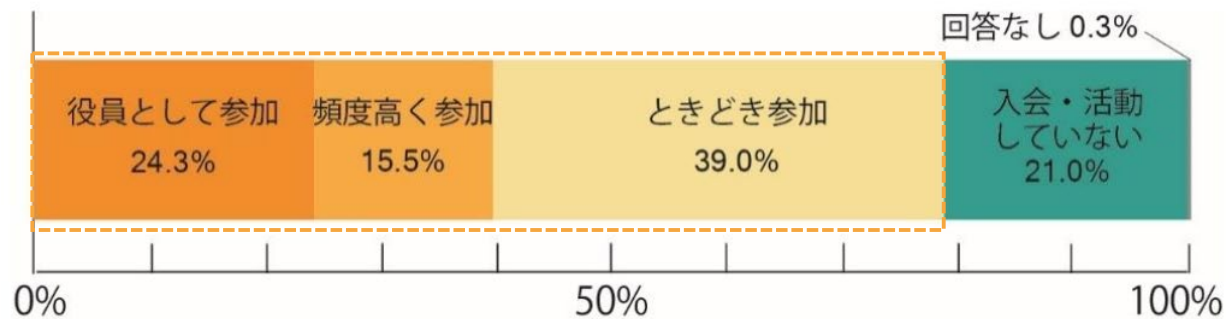


図. 地域活動への参加度合(n=362)

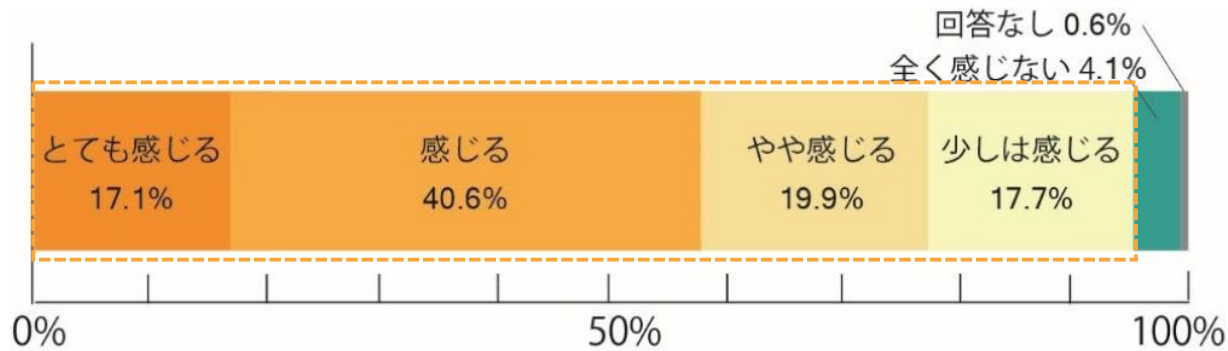


図. 地域への愛着(n=362)

調査結果_地域の変化に対する態度



- 地域に新しい事業や店舗ができること、文化や価値観が変わることは受容できる人が多い傾向
- 地域のためであっても、別集落に転居することは受容できない傾向

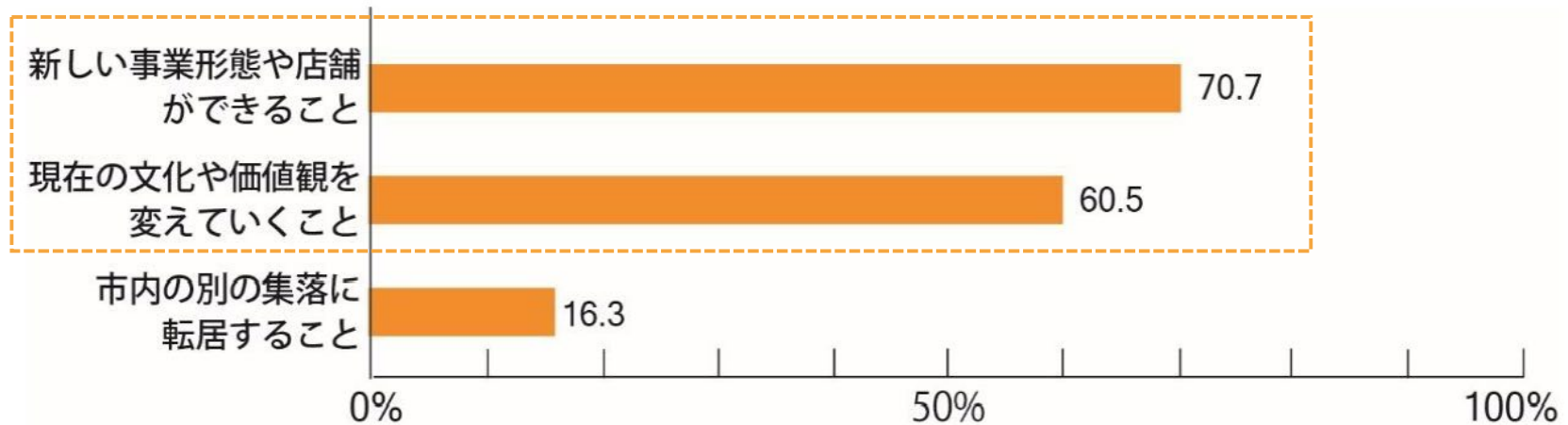


図. 地域のための変化に対する受容度(n=362)※複数回答

調査結果_市外に住む友人との関係性



- 現在、市外に何らかの関係のある友人がいる人は85.4%と多い
- より深い関係性にある友人を持つ人が78.7%と多い

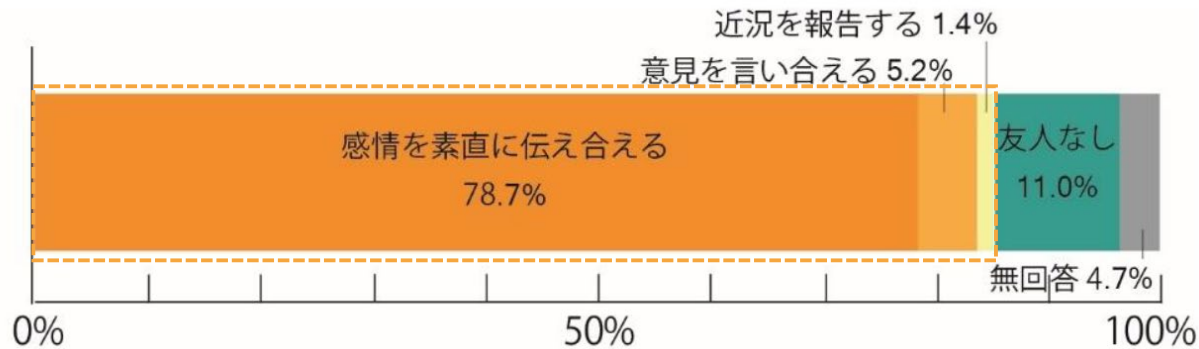


図. 市外に住む友人との関係性(n=362)

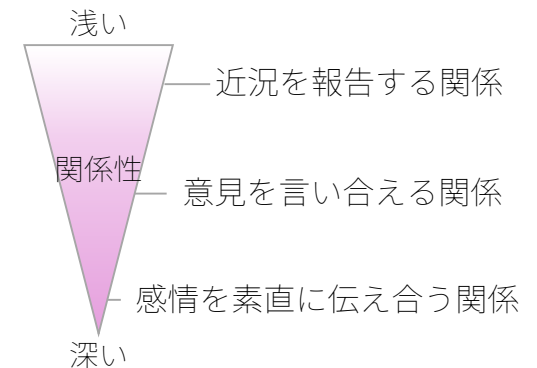


図. 友人との関係性(説明)

調査結果_観光客との接点や態度



- 観光客に対するサービス業に従事する人を除くと、観光客と接する機会のある住民はほとんどいない（上図）
- 観光客と出会い何らかのコミュニケーションが発生する場合、受動的なケースが多い傾向（下図）

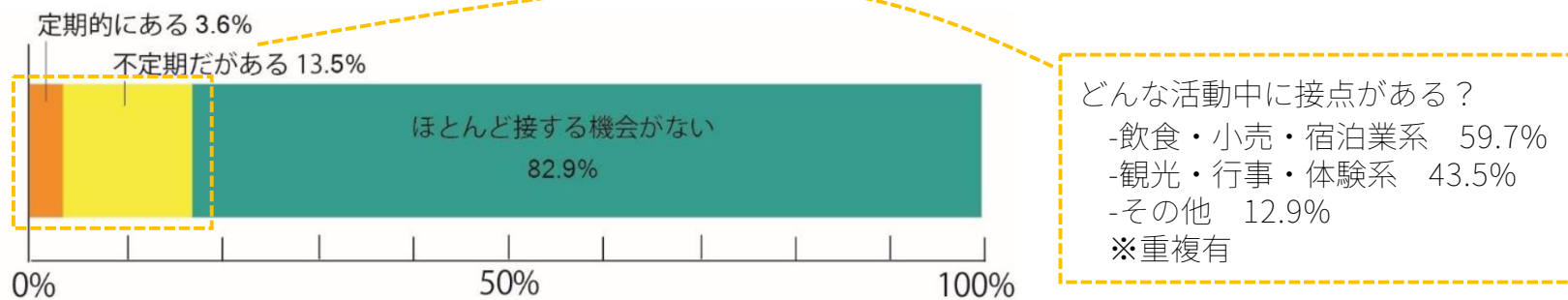


図. 日常生活における観光客との接点と頻度(n=362)

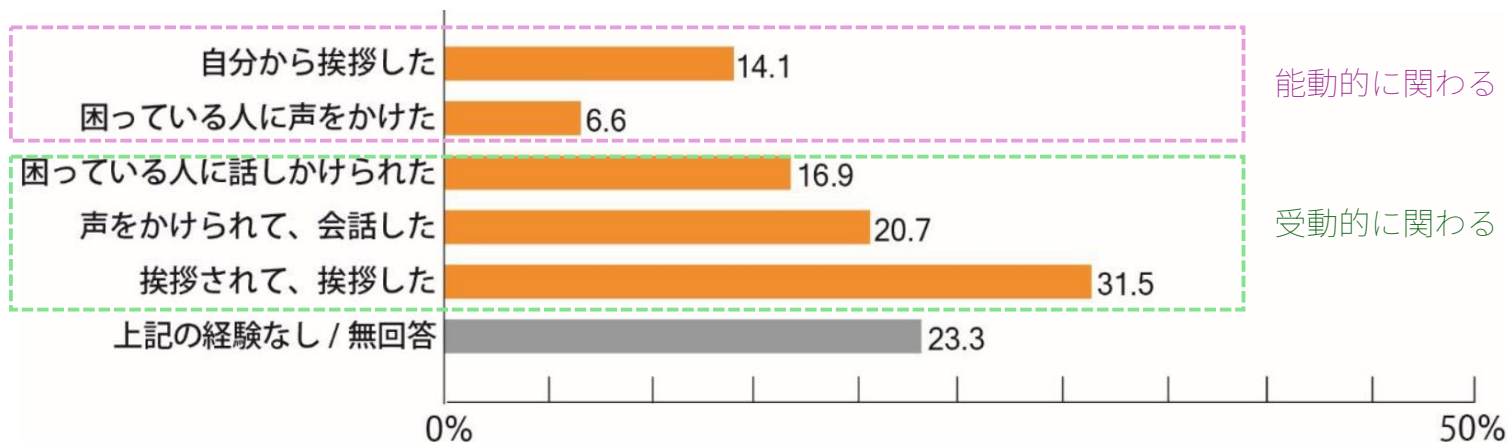


図. 過去2年間に於ける観光客と出会った際の対応(n=362)※重複有

調査結果_関係人口の認知



- 飛騨にいる関係人口を認知している人は少数だが、全体的に協働意識を持つ割合は高い（左図）
- 人手不足等で現在の活動継続が難しくなった場合を想定し、回答を得た結果（右図）観光/地場産業発展や環境保全、景観維持には協働的な態度を取る人が多く、地縁活動や伝統行事には排他的な態度を取る人が多い

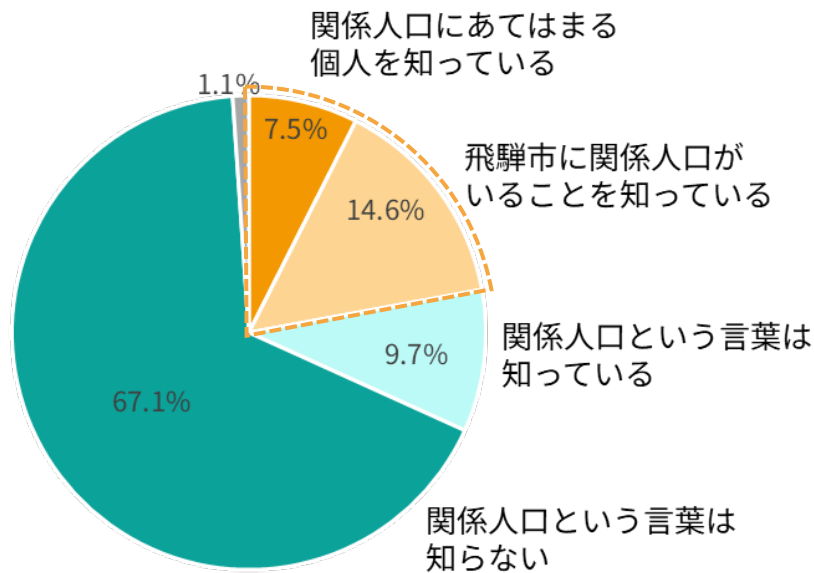


図. 関係人口の認知割合

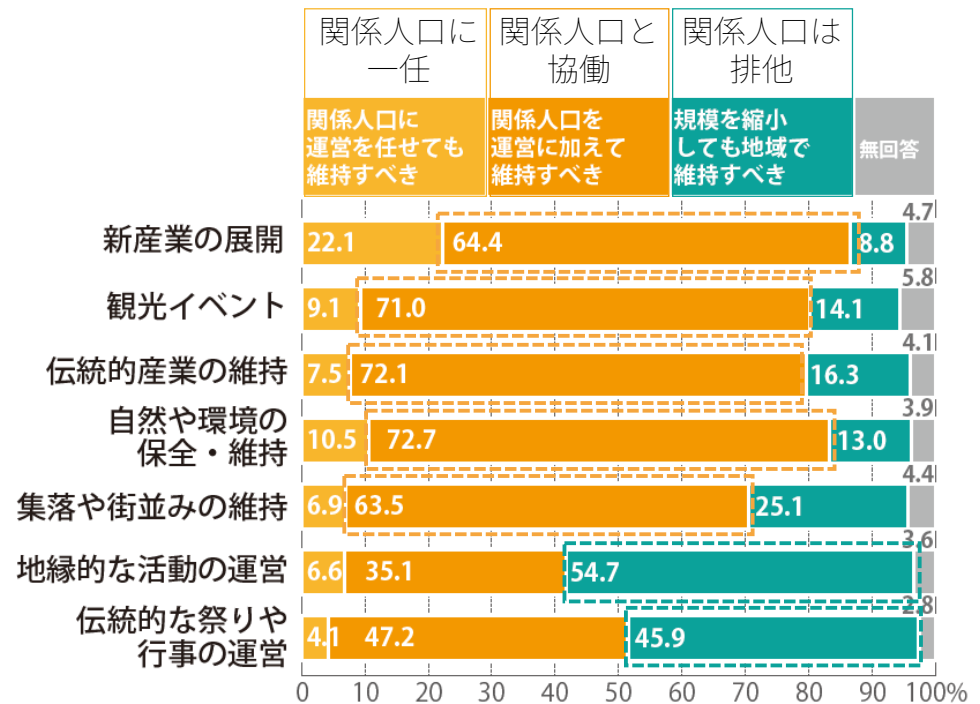


図. 産業や地域活動別での関係人口との協働意識(※)

(※)人手不足等で現在の活動を継続することが難しくなった場合、運営主体はどうあるべきか、に対する回答



- 関係人口が地域の活動に関わることになった場合を想定し回答を得た
- 頼む作業が限定的な場合、観光/地場産業発展や環境保全といった協働意向の高い分野（前頁）で選択率は過半数であった。一方、伝統行事（前頁で排他意向も高い分野）でも選択率は過半数となっている
- 運営の一員とする場合、前頁で排他意向の高い伝統行事や地縁活動でより選択率が低くなっている

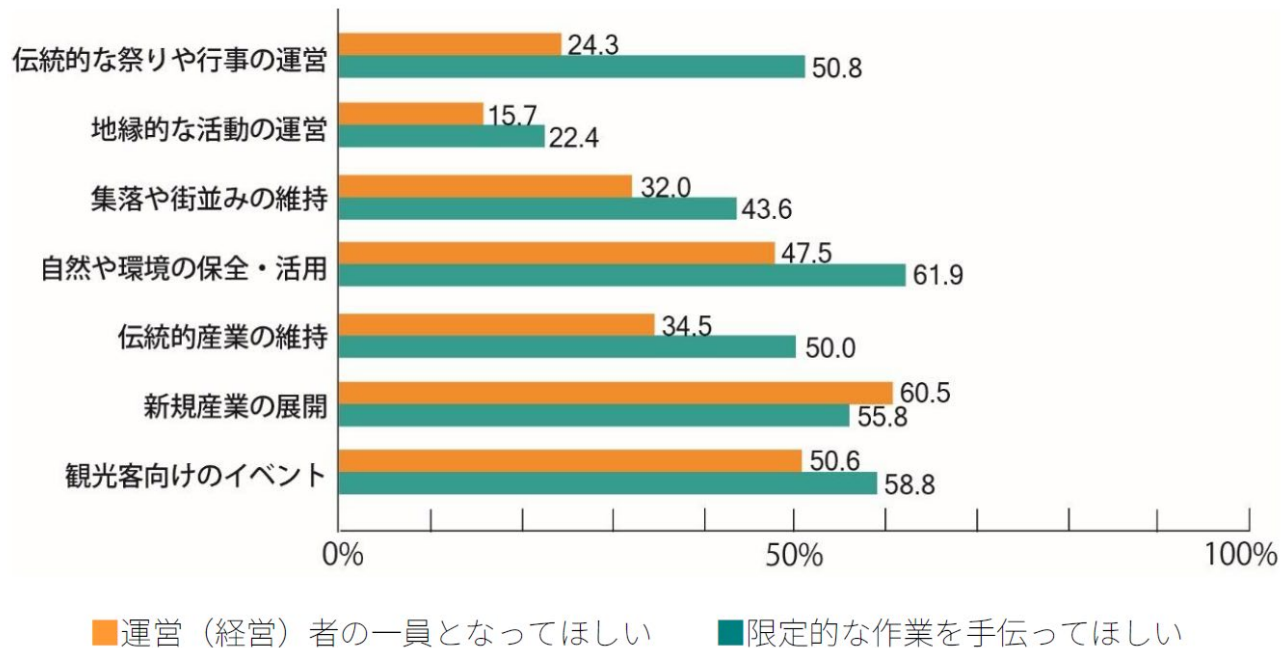


図. 関係人口がいずれかの活動に関わる場合、頼みたい活動とその作業範囲（n=362）※複数回答

分析結果_関係人口との協働意識の分類と特徴



- クラスター分析により関係人口との協働意識の選択傾向を5分類 (n=336)
- 外部活用型が最も多く、次に混合型Ⅱ、Ⅰであり、内部運営型や外部一任型は少数



街並み



伝統行事

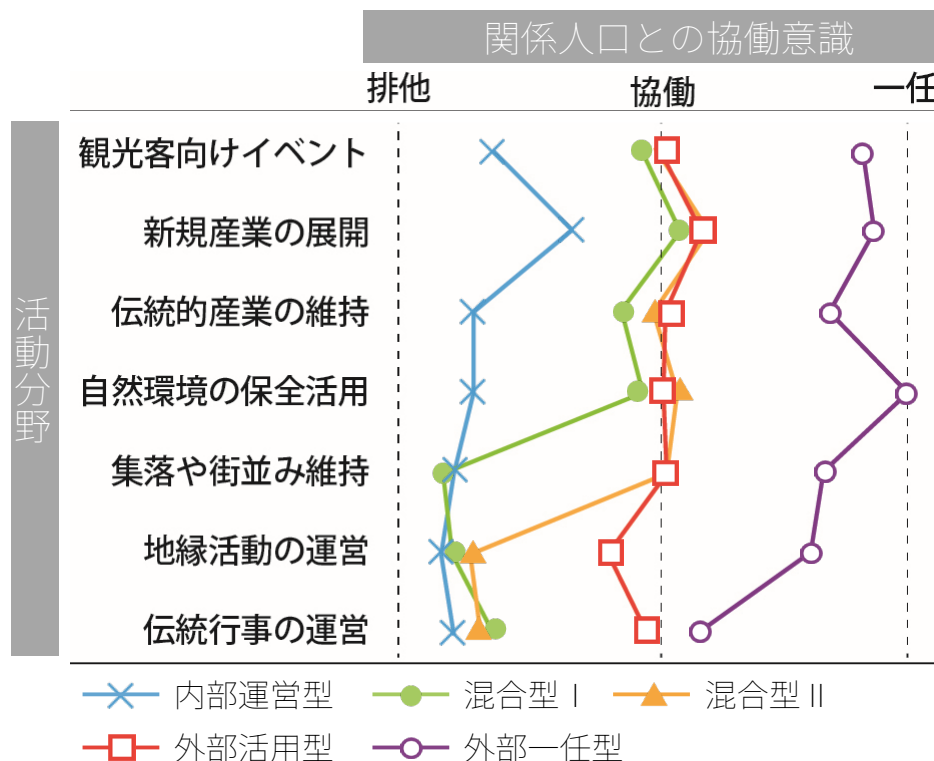


図. クラスター分析の結果

表. クラスターごとの分布と特徴

内部運営型 (38人)	全分野で過半数が排他的
混合型Ⅰ (53人)	産業や環境保全で過半数が協働的だが景観維持や地縁活動、伝統行事には排他的
混合型Ⅱ (94人)	産業や環境保全、景観維持で過半数が協働的だが地縁活動や伝統行事には排他的
外部活用型 (129人)	全分野で過半数が協働的
外部一任型 (22人)	伝統行事以外で過半数が一任的、伝統行事で4割程度が一任的

分析結果_関係人口との協働意識の分類と特徴



分類間で比較すると、内部運営型（排他意向）や外部一任型（一任意向）では愛着が比較的弱いまたは無い人が多い

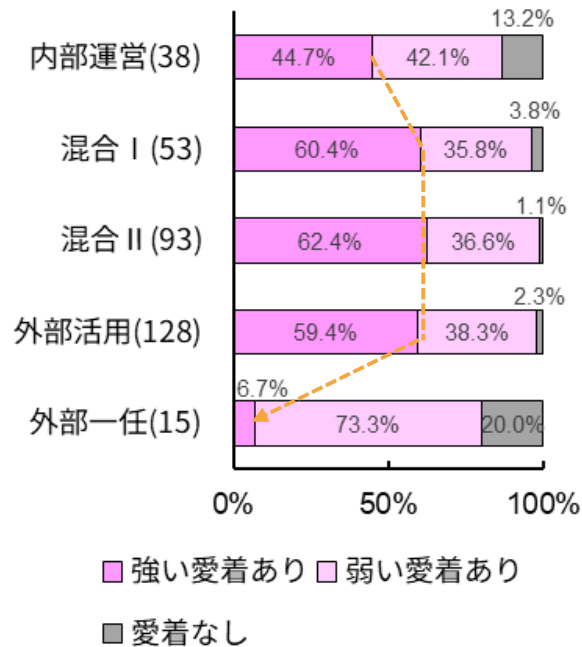


表. 地域への愛着強弱分布と残差分析(n=327)

項目	選択肢	クラスタータイプ					総計	
		内部運営	混合Ⅰ	混合Ⅱ	外部活用	外部一任		
地域への愛着 *** (p<0.001)	強い愛着あり	度数	17	32	58	76	1	184
		割合	9.2%	17.4%	31.5%	41.3%	0.5%	100%
		残差	-1.52	0.66	1.40	0.91	-3.96	
	弱い愛着あり	度数	16	19	34	49	11	129
		割合	12.4%	14.7%	26.4%	38.0%	8.5%	100%
		残差	0.36	-0.59	-0.67	-0.35	2.75	
	愛着なし	度数	5	2	1	3	3	14
		割合	35.7%	14.3%	7.1%	21.4%	21.4%	100%
		残差	2.88	-0.20	-1.81	-1.39	3.08	
	総計	度数	38	53	93	128	15	327
		割合	11.6%	16.2%	28.4%	39.1%	4.6%	100%

残差 >1.96, <-1.96 ※調整済残差

図. 分類別の愛着の強弱
(回答なしを除く n=327)

分析結果_関係人口との協働意識の分類と特徴



- 文化や価値観の変化は外部活用型で受容度が高く、外部一任型で低い
- 別集落への転居は内部運営型で受容度が高く、協働意向の型で低い傾向

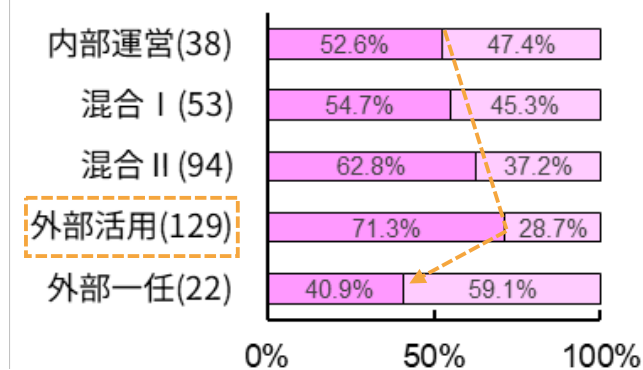


図. 文化や価値観の変化への受容性

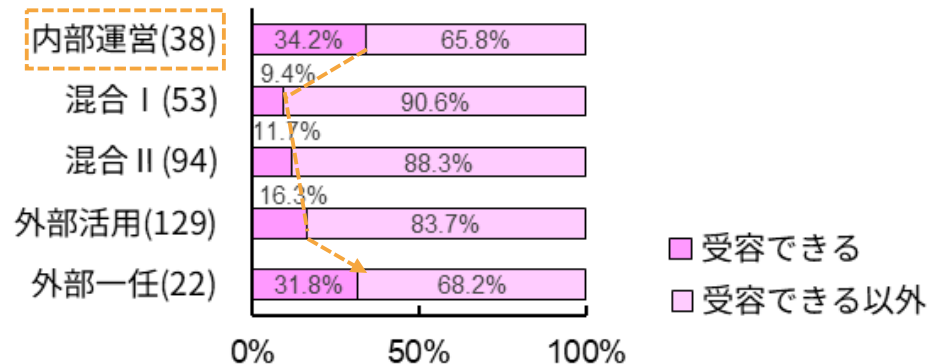


図. 市内の別集落転居への受容性

表. 地域のための変化の受容分布と残差分析

項目	選択肢	クラスタータイプ					総計	
		内部運営	混合Ⅰ	混合Ⅱ	外部活用	外部一任		
【地域変化への受容】 一文化や価値観が変化 すること＊ (p=0.02<0.05)	受容できる	度数	20	29	59	92	9	209
		割合	9.6%	13.9%	28.2%	44.0%	4.3%	62.2%
		残差	-1.29	-1.22	0.13	2.72	-2.13	
	受容できる以外	度数	18	24	35	37	13	127
		割合	14.2%	18.9%	27.6%	29.1%	10.2%	37.8%
		残差	1.29	1.22	-0.13	-2.72	2.13	
一市内の別の集落に 転居すること** (p=0.004<0.01)	受容できる	度数	13	5	11	21	7	57
		割合	22.8%	8.8%	19.3%	36.8%	12.3%	17.0%
		残差	3.01	-1.59	-1.60	-0.26	1.92	
	受容できる以外	度数	25	48	83	108	15	279
		割合	9.0%	17.2%	29.7%	38.7%	5.4%	83.0%
		残差	-3.01	1.59	1.60	0.26	-1.92	
総計	度数	38	53	94	129	22	336	
	割合	11.3%	15.8%	28.0%	38.4%	6.5%	100.0%	

残差 >1.96, <-1.96 ※調整済残差



表. 各型の性質と分類間で比較した際の特徴まとめ

	クラスタータイプ				
	内部運営	混合Ⅰ	混合Ⅱ	外部活用	外部一任
地域活動に対する担い手の意識	どの分野も地域内で運営すべき	祭りや行事、地域内活動は地域内で、その他は関係人口と協働すべき	祭りや行事、地域内活動、景観は地域内で、その他は関係人口と協働すべき	どの分野も関係人口と協働で運営すべき	どの分野も関係人口に一任で運営すべき
関係人口の認知度	概念認知以上の人がやや少ない	個人と知り合いがやや少ない	概念認知のみの人が多い	個人と知り合いが多い	—
地域活動の関与度	入会・活動なしがやや多い	頻度高く参加がやや多い	—	役員として参加がやや多い	入会・活動なしがやや多い
地域への愛着	愛着なしの人が多い	—	強い愛着が多く、愛着なしが少ない	愛着なしがやや少ない	強い愛着があり少なく、弱い愛着や愛着なしが多い
愛着スタイル	持続型が少なく疎遠型が多い	独自型が多く疎遠型が少ない	独自型が多く持続型が少ない	持続型が多く独自型が少ない	—
地域変化への受容	集落転居は受容できる人が多い	集落転居は受容できない人が多い	集落転居は受容できない人が多い	文化価値観の変化は受容できる人が多い	文化価値観の変化は受容できない人が多い
【考察】 集落維持・発展に対して想定される感情・態度	地域の維持・発展に非協力的、関係人口活用の後向き、諦め、撤退	日常生活に根づく文化に関わる活動には関係人口活用の後向き、それ以外は前向き	日常生活や空間に根づく文化に関わる活動には関係人口活用の後向き、それ以外は前向き	地域の維持・発展に協力的、住民との協働に前向き、関係人口活用に前向き	地域の維持・発展に非協力的、関係人口活用ではなく一任する、責任回避、撤退

：有意な差が確認された内容



◆ 研究の目的

行政が関係人口を活用した地域の内発的発展を目指すための知見を得ることを目的とし、発展の主体となる地域住民の関係人口理解や協働意識を明らかにする

◆ 目的に対する結果と考察

- 飛騨市では関係人口の認知は低いが、関係人口との協働意識は高い傾向にある
- 地域産業の維持発展や街並み・環境保全の分野では住民の協働意識を持つ割合が高く、関係人口を活用する分野として住民の理解が得られやすい。行政施策を展開しやすい土俵であると考えられる
- 内発的発展に繋がる可能性が想定される外部活用型だけでなく、多く分布する混合型Ⅰ、Ⅱに対しても行政から関係人口活用に関する説明や動機づけを行っていくことが、関係人口を活用した地域の内発的発展に繋がる



「市外の人材活用と地域活動に関するアンケート調査」ご協力のお願い

市民の皆さまへ

日頃より飛騨市政へのご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

飛騨市では、大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻と協働で、飛騨市の維持・活性化を目指すための政策のあり方について研究を行っています。その一環として、市民の皆さまを対象にした、市外の人材活用や地域活動に対する考え方をお伺いするためのアンケート調査を実施させていただきます。

つきましては、調査実施にあたり、市の住民基本台帳から20歳以上の市民900人の方を無作為に抽出して、調査票をお送りさせていただきました。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、アンケート調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

また、ご回答いただいたアンケートは、個人が特定されない形で統計処理を行った上で、研究及び市の事業推進のために使用します。アンケートデータは飛騨市及び大阪大学が厳重に管理し、本票は大阪大学にて適切に管理します。また、破棄する場合には、機密文書扱いにて処理いたします。

なお、分析結果は学術的な論文や学会、市の公式サイト等にて発表することがございますので、予めご理解いただけますようお願いいたします。

2024年3月

飛騨市長 都竹淳也



飛騨市



大阪大学

大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻
講師 武田裕之
博士課程2年 関根仁美、修士課程1年 潮優貴

回答方法・記入上の注意

- アンケートは二次元コードと紙の2パターンあります。**どちらかを選択し**、ご回答ください。
- 紙のアンケートに記入する際は、ボールペンなどをお使いください。紙のアンケートはA3サイズ1ページの両面にあります。
- **15分程度**で回答できます。
- インターネットで回答する場合は、アンケートをスマホから読み取り、インターネットに繋がった環境で回答してください。
※通信料は回答者様のご負担となります
- ご回答は**3月25日(月)**までに返信用封筒にて郵送またはインターネット上で回答を送信してください。

インターネットで
回答する方へ

下コードを読み
取ってください。



<ご質問等ございましたら下記までお問い合わせください>

●調査の趣旨に関すること（アンケート発送元）
〒509-4292 飛騨市古川町本町2番22号
飛騨市役所 企画部 総合政策課
電話 0577-73-6558（直通）
平日 8:30~17:00

●設問への質問や回答方法に関すること
大阪大学大学院工学研究科
ビジネスエンジニアリング専攻都市再生マネジメント領域
加賀・武田研究室 博士2年 関根仁美
TEL: 06-6879-7656（直通）平日 10:00~17:00
E-mail: sekine@mit.eng.osaka-u.ac.jp



1. あなた自身について

該当する選択肢にチェック ☐ をしてください。

【1-1】あなたの性別を教えてください。

☐ 男性 ☐ 女性 ☐ 回答しない

【1-2】あなたの年代を教えてください。

☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代～

【1-3】あなたの住んでいる町を教えてください。

☐ 古川町 ☐ 河合町 ☐ 宮川町 ☐ 神岡町

【1-4】あなたの家族と、あなたのお住まいの状況について教えてください。

	同居している	別居している	該当する人はいない
配偶者	☐	☐	☐
父母（義父母）	☐	☐	☐
子や孫	☐	☐	☐
その他親族	☐	☐	☐

【1-5】あなたが飛騨市内に住んでいる延べ年数を教えてください。

☐ 1年未満 ☐ 1～2年 ☐ 3～5年 ☐ 6～10年
☐ 11～15年 ☐ 16～20年 ☐ 20年以上

【1-6】あなたは市外に住んだことはありますか。ある場合、場所を教えてください。

☐ 住んだことはない ☐ 岐阜県内の、飛騨市以外の市町村に住んでいた
☐ 他の都道府県に住んでいた
 ▲都道府県をご記入ください（可能な範囲で結構です）

【1-7】あなたは現在以下のような地域活動に参加していますか。あてはまるものをすべて選択してください。

	役員として参加	頻度高く参加	ときどき参加	入会・活動していない
町内会の活動	☐	☐	☐	☐
町内会以外の地縁活動（女性会、シニアクラブ、消防団、ボランティアなど）	☐	☐	☐	☐

2. 市外の人との関わりについて

該当する選択肢にチェック ☐ をしてください。

【2-1】飛騨市外に住んでいる友人・知人についてお伺いします。
 以下のような関係にある人の人数をそれぞれ教えてください。

- i) お互いの感情を素直に伝え合うことができる人
☐ いない ☐ 1～2人 ☐ 3～5人 ☐ 6～10人 ☐ 11人以上
- ii) 上記 i) の人を除き、お互いに自分の意見を言い合える人
☐ いない ☐ 1～2人 ☐ 3～5人 ☐ 6～10人 ☐ 11人以上
- iii) 上記 i), ii) の人を除き、定期的にお互いの近況などを報告し合う人
☐ いない ☐ 1～2人 ☐ 3～5人 ☐ 6～10人
☐ 11～15人 ☐ 16～20人 ☐ 21人以上

【2-2】飛騨市に訪れる観光客について伺います。
 あなたは普段から、観光客と接する機会がありますか。

☐ 定期的にある ☐ 不定期だがある ☐ ほとんど接する機会がない

【2-3】、【2-4】へ

【2-4】へ

【2-3】観光客と接するような活動はどのような活動ですか。あてはまるものを選択してください（複数ある場合はすべて選択してください）。

- ☐ 宿泊に関わる接客 ☐ 飲食や小売に関わる接客
☐ 観光に関する接客 ☐ 農作業・工芸体験などの受け入れ
☐ 祭りや行事の運営 ☐ 交通機関（バス、電車、タクシー）での接客
☐ その他

▲具体的な活動内容を可能な範囲でご記入ください

【2-4】過去2年間の中で、まちなかで観光客に出会った際に、以下のような接点を観光客と持つことはありましたか。あてはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 自分から声をかけ、観光客と話した
☐ 自分から観光客に挨拶をした
☐ 困っている観光客をみかけて、声をかけた
☐ 困っている観光客に話しかけられて、手助けをした
☐ 観光客に声をかけられて会話をした
☐ 観光客に挨拶をされて、挨拶を返した

質問は裏に続きます



3. 関係人口との関わりについて

該当する選択肢にチェック ☐ をしてください。

【3-1】あなたの町の魅力を見つけた、町の課題を改善するために、市外から定期的に訪れたり遠隔から関わる人のことを「関係人口」といいます。その関係人口にあてはまる人を知っていますか。

- ☐ 関係人口にあてはまる個人を知っている
- ☐ 個人は知らないが関係人口として飛騨市に来ているということは知っている
- ☐ 関係人口という言葉は知っていた
- ☐ 関係人口という言葉も知らなかった

【3-2】人手不足等により現在の取組を継続することが難しくなった場合、運営主体はどうかと感じますか。それぞれ考えに最も近いものを選択してください。

	規模を縮小させても 地域内で運営すべき	運営に関係人口を 加えて維持すべき	運営に関係人口に 任せて維持すべき
伝統的な祭りや行事	☐	☐	☐
観光客向けのイベント	☐	☐	☐
自然や環境の保全・活用	☐	☐	☐
集落や街並みの維持	☐	☐	☐
地縁的な活動の運営 (町内会、地縁組織など)	☐	☐	☐
伝統的産業の維持	☐	☐	☐
新規産業の展開	☐	☐	☐

【3-3】関係人口が地域の取組に関わるようになった場合、関係人口が関わる範囲について、あてはまると考える取組をすべて選択してください。

i) 決められた作業を限定して外部の人に手伝ってもらいたいと思うもの

- ☐ 伝統的な祭りや行事
- ☐ 観光客向けのイベント
- ☐ 自然や環境の保全・活用
- ☐ 集落や街並みの維持
- ☐ 地縁的な活動
- ☐ 伝統的産業の維持
- ☐ 新規産業の展開
- ☐ 関係人口の助けが必要な取組はこの中にある

ii) 活動の運営者（経営者）の一人になってもらいたいと思うもの

- ☐ 伝統的な祭りや行事
- ☐ 観光客向けのイベント
- ☐ 自然や環境の保全・活用
- ☐ 集落や街並みの維持
- ☐ 地縁的な活動
- ☐ 伝統的産業の維持
- ☐ 新規産業の展開
- ☐ 関係人口の助けが必要な取組はこの中にある

4. あなた自身の価値観について

該当する選択肢にチェック ☐ をしてください。

【4-1】あなたの考えについて、それぞれ最も近いと思うものを選択してください。

※地域とは、お住まいの町を指します

	非常に そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう思 わない	全くそう 思わない
私は地域の中で孤立してしまうのではないかと心配している	☐	☐	☐	☐	☐
私は地域の人に関係を切られてしまうのではないかと心配している	☐	☐	☐	☐	☐
私が地域の人を思うほどには、地域の人々が私を大切に思っていないと心配する	☐	☐	☐	☐	☐
私は心の奥底にある考えや気持ちを人に話すことに抵抗がない	☐	☐	☐	☐	☐
私はたいてい、人と自分の問題や心配ごとを話し合う	☐	☐	☐	☐	☐
私は地域の人に頼ることに抵抗がない	☐	☐	☐	☐	☐

【4-2】あなたは現在お住まいの町にどれほど愛着を感じていますか。

- ☐ とても愛着を感じる
- ☐ 愛着を感じる
- ☐ やや愛着を感じる
- ☐ 少しは愛着を感じる
- ☐ 全く愛着を感じない

【4-3】以下の中で、あなたが地域のために受け入れることができるものはどれですか。あてはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 地域を良くするために、現在の価値観や文化を変えていくこと
- ☐ 地域を良くするために、新しい事業形態や店舗ができること
- ☐ 地域の生活機能を維持するために、市内の別の集落に転居すること

【4-4】あなたの価値観としてどちらか近い方をそれぞれ選択してください。

社会のことよりも、まず自分や自分の近くにいる人にとっての幸せを優先して考える	☐	☐	自分や自分の近くにいる人の幸せよりも、社会全体にとっての幸せを優先して考える
今の世代を生きる人よりも、将来の人にとっての幸せを考える	☐	☐	将来の人のことよりも、まず今の世代を生きる人の幸せを考える